

子どもの可能性を否定していませんか？

受験に立ち向かう

子どもとの関わり方

株式会社対話教育研究所  
代表取締役

一般社団法人日本教育メソッド研究機構  
代表理事

こやま ひでき  
小山 英樹先生



## [[ Top Message ]]

受験生への関わり方は、とにかく悩みも多いものです。

子どもの様子に焦りを覚え、次のような対応をしてしまうこともあるのではないのでしょうか。

受験が近づいてきているのに、勉強に身が入っていない様子を見て、つい声をあげてしまう

スランプに陥って成績が伸び悩んでいるところに「不合格になったらどうするの?」と問い詰めてしまう

やる気を出させるつもりがプレッシャーを与えて逆効果になってしまったという経験もあるかもしれません。

受験勉強に意欲的に取り組み、本番で成果を出せるように、

塾や保護者はどのように声をかけて子どもと関わっていけばいいのでしょうか。

高校教諭や塾での指導を経て「教育コミュニケーション」研究の第一人者として

活躍される小山英樹先生にお話を伺いました。



株式会社対話教育研究所 代表取締役 / 一般社団法人日本教育メソッド研究機構 代表理事

### 小山 英樹(こやま ひでき)先生

私立高校の教諭、民間教育機関を経て現職。

教育コミュニケーション(コーチング、アクティブラーニング)のメソッドを確立し、教師力向上・能力開発プログラムを展開する一方、学校・塾・教育委員会・プロスポーツ・企業等において講演・研修活動を行う。その参加者・受講者は15万人を超える。

『子どもの心に届く言葉、届かない言葉』(学研)、『子どもを伸ばす5つの法則』(PHP研究所)、『教室改革』(幻冬舎)など上梓。

※ 本資料は2021年11月18日に開催されたComiruオンラインセミナーでの内容をまとめたものです。

# 1. 子どものネガティブな点をポジティブに捉え直す

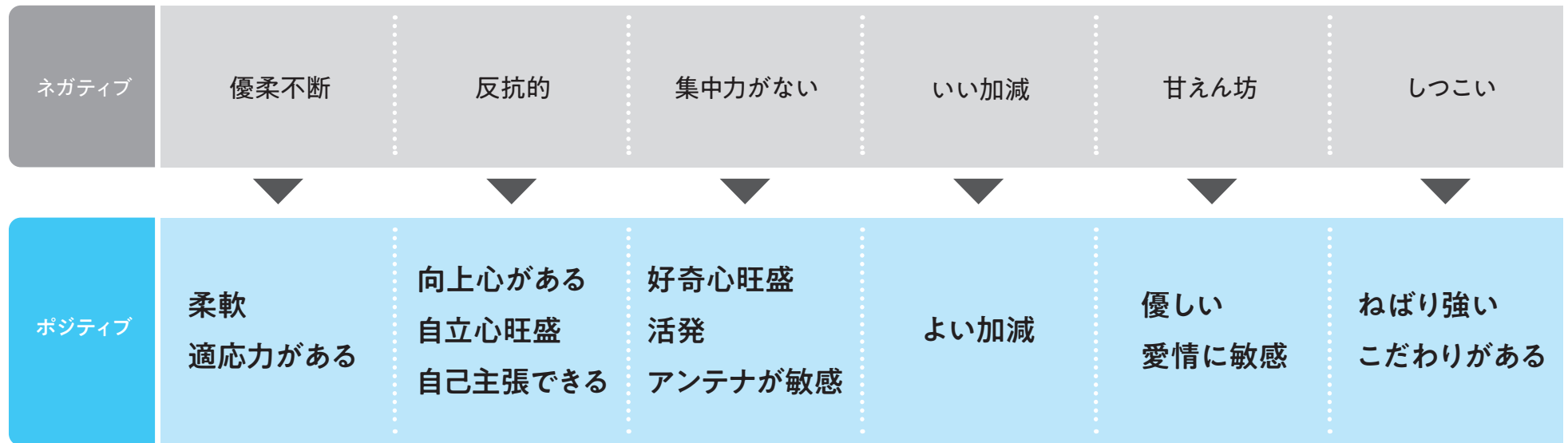
子どもを見ていると、下図のようにネガティブな部分が気になることもあるかと思います。

でも、これらは見方を変えるとポジティブに捉え直すこともできます。

このように見てみると、物事の捉え方は、見る側が勝手に解釈しているにすぎないことがわかるのではないのでしょうか。

そこで、まずはネガティブに捉えてしまっている子どもの様子を違う視点で捉え直し、ポジティブに解釈できるようにしてみてください。

なぜなら、大人が子どもをどう見るかで子どもの成長ややる気は大きく変わってくるからです。



## 2. ポジティブな関わりが 子どもの「成長スイッチ」を入れる

防衛

成長

子どもには「(自己)防衛」「成長」の2つのモードがあり、スイッチのように切り替わります。  
そのスイッチを切り替えるきっかけとなるのは、大人の関わりです。

大人が責めたり、批判したり、問い詰めていては、子どもはすぐに「防衛」モードとなります。一方、励ましたり、信頼したり、承認したりと子どもを尊重したポジティブな関わりを行うと「成長」モードに切り替わります。つい、感情にまかせてガミガミ言いたくなることもあるかもしれませんが、でも、それが子どもを前向きに動かすことには繋がらないということを肝に銘じておきましょう。

防衛 | 成長

### 「防衛スイッチ」ONの状態

- 文句を言う
- 脅す
- 責める
- 罰を与える
- 批判・否定する
- 子どものせいにする
- 無視する
- 比較する
- ガミガミ言う
- 問い詰める

防衛 | 成長

### 「成長スイッチ」ONの状態

- 傾聴する
- 支援する
- 励ます
- 尊敬する
- 信頼する
- 承認する・受容する
- 愛を伝える
- 興味を持って質問する
- 意見の違いを交渉する



# 3. 子どもとの関わり方の“3つのポイント”

子どものスイッチを成長モードに切り替えるために、大人は具体的にどのように関わっていけばいいのでしょうか。

アメリカの臨床心理学者カール・ロジャースは、次のように述べています。

- 関心を保たれている
- 認められている
- 大切にされている
- 愛されている
- 理解されている

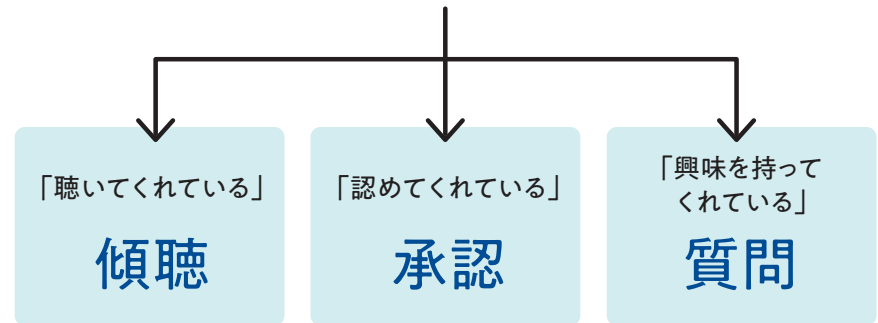
と実感したとき、  
人は自己成長力を発揮し、主体的・意欲的な行動を始める

ロジャースのこの言葉を実現するカギとなるのは「傾聴」「承認」「質問」です。

子どもの必須栄養素は、愛・信頼

そのうえで、

思考と対話の機会を提供する



次のページから“3つのポイント”をご説明します。

### 3.子どもとの関わり方の“3つのポイント”

## [[ 子どもとの関わり方のポイント1 ]] 傾聴する

傾聴とは、相手のいうことを否定せず、全身を耳にして相手の話を受け取りながら聴くことです。

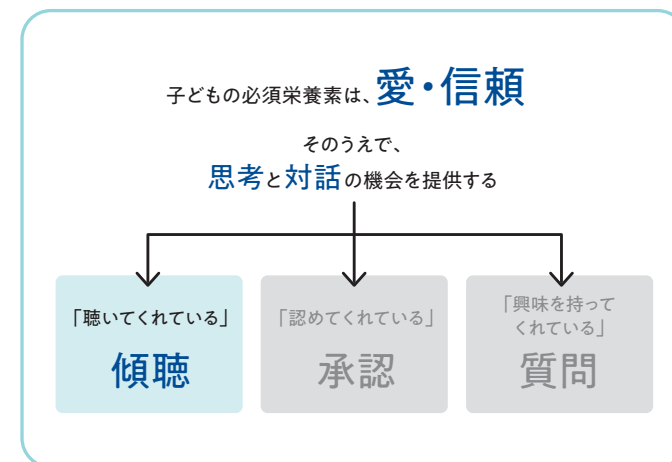
「子どもの話は聞いているよ」という方も多いかと思いますが、

次のようにNGな聞き方となっていないでしょうか？

### [[ 子どもの話の聞き方のNG例 ]]

- 聞く耳持たず
- 聞かずにしゃべる
- 聞いているふり

忙しかったり、何か自分が言いたいことがあったりするときは、ついNG例のような聞き方になることもあるでしょう。でも、それでは子どもは「関心を持たれている」「大切にされている」と感じることはできず、自己成長力を発揮できません。全身を耳にして受け取る「傾聴」を心がけていきましょう。



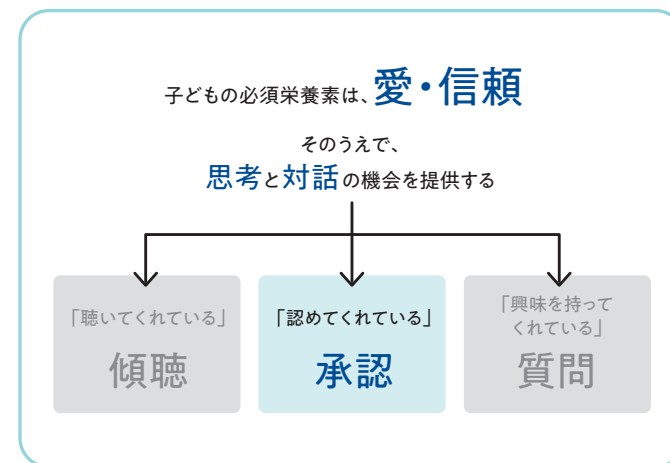
### 3.子どもとの関わり方の“3つのポイント”

## 【子どもとの関わり方のポイント2】承認する

承認するとは、子どもが「(自分は)認められている」と実感するようにしてあげるものです。  
そのためには「リフレーミング」「メッセージでの存在承認」「未来承認」の3つが大事になります。

### ▶▶リフレーミング

リフレーミングは、冒頭ご紹介したように子どもの気になる点も見方を変えてポジティブに捉え直すこと。  
「集中力がない」と捉えるのではなく「好奇心旺盛」「活発」「アンテナが敏感」と捉えて子どもと接すれば、  
子どもも自分を批判されたのではなく、良い点を認めてもらえたと感じることができるはずです。



ネガティブ	優柔不断	反抗的	集中力がない	いい加減	甘えん坊	しつこい
ポジティブ	柔軟 適応力がある	向上心がある 自立心旺盛 自己主張できる	好奇心旺盛 活発 アンテナが敏感	よい加減	優しい 愛情に敏感	ねばり強い こだわりがある

### 3.子どもとの関わり方の“3つのポイント”

#### ▶▶ “Iメッセージ”での存在承認

子どもにメッセージを伝える際には、主語を「You」ではなく「I」にしてみてください。

下の図にある通り、主語が「You」のYouメッセージは評価を表すのに対して、主語が「I」の「Iメッセージ」は話者の気持ちやハートの動きを伝える言葉となります。これが子どもの心を揺さぶるのです。

受験生のお子さまには「応援してるよ」「見守ってるよ」「あなたの未来が楽しみ」と、自分の感情をそのまま言葉にしたIメッセージでサポートしてあげてください。

	Youメッセージ	Iメッセージ
定義	主語が「You」で 評価を表す	主語が「I」で 話者の気持ちを表す
例文	(あなたは)すごいね	(私は)感心している

### 3.子どもとの関わり方の“3つのポイント”

#### ▶▶ 未来を承認する

子どもを承認するときには、過去から現在の状態だけでなく未来を認めるメッセージも伝えてあげるようにしてください。  
「成績が上がっていくはずだよ」「きっとうまくいくよ」と明るい未来を伝えることで、希望の光が灯り、子どものやる気の炎に火がつくはずですよ。  
「未来承認をすることで、子どもが油断して気持ちが緩むのでは?」と疑問に思われる方もいらっしゃるかもしれませんが、私が見てきた限りそのような子は1人もいません。

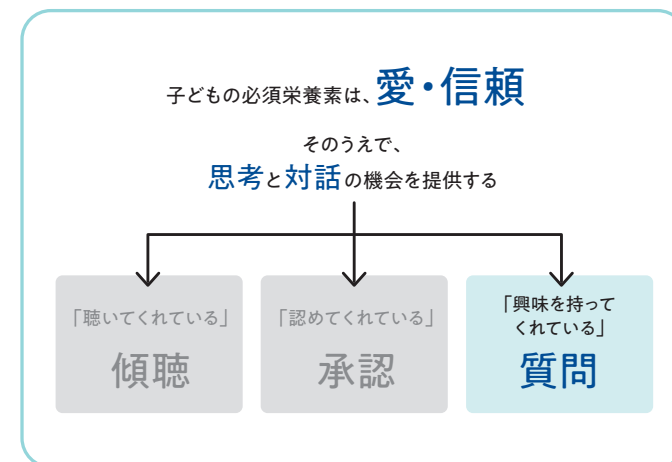
	過去・現在承認	未来承認	
定義	過去から現在の状態を認める承認メッセージ	未来を認める承認メッセージ	
例文	「よく努力した」 「成績が上がってきた」 「素晴らしい結果だ」 「うまくいった」 「優しい性格だね」 「ラッキーだったね」	+	「これから君は努力し続ける」 「成績が上がっていくはずだ」 「結果が出るのを楽しみにしているよ」 「きっとうまくいく」 「優しい人として生きていくはずだ」 「たくさんのラッキーが訪れるよ」

### 3.子どもとの関わり方の“3つのポイント”

## 【子どもとの関わり方のポイント3】 質問する

質問は子どもへの興味・関心を示すものです。とはいえ、「質問」が「詰問」になってしまっているケースも多いため注意が必要です。具体的なケースを見ていきましょう。

たとえば「やろうとしたけど、できなかった」という子どもに対して、どう質問をしますか？



### 「やろうとしたけど、できなかった」という子どもに対して質問する

右図のNG例のような質問をされていた方は、要注意。子どもにとっては「詰問」のように感じられ、防衛モードのスイッチが入ってしまうリスクが高くなります。

一方、黄色部分のような質問であれば成長モードのスイッチが入るはず。なぜなら、「何」を聞かれることで、子どもの中で手がかりや原因を探る思考が起こるから。思考により主体性が育まれ、未来を切り拓く行動が導かれることでしょう。

#### 【NG例】

- 「本当にやりたいと思った？」
- 「無理ならもういいんじゃない？」
- 「**なぜ**できなかったの？」
- 「**なぜ**難しいの？」

- 「今、どんな気持ち？」
- 「**何**がジャマして実行できないんだろう？」
- 「**何**があれば実現するんだろう？」
- 「カギは**何**？」
- 「やりきる人には**何**がありそう？」
- 「やりきったら**何**が手に入るんだろう？」
- ★「**できた**としよう。おめでとう！  
どんな気持ち？」



また、★のようなヒーローインタビュー形式の質問もおすすめです。明るい未来を仮定して、その際の気持ちやそこに至る過程を聞いてみるのです。不思議なことに子どもはどんどん話しますよ。そんな姿を見ると、子どもは本来どうすれば障害を乗り越えられるのかを知っていることを実感させられます。

# 4. デフォルトの書き換えをする



子どもの成長スイッチを押すには、指示や命令ではなく「傾聴」「承認」「質問」が大切であることをお伝えしてきました。これは、これまでの子どもへの対応のデフォルト(初期設定)を変えていくこととも言えます。社会全体がかつてない変化を遂げていく中で、教育や子どもへの対応のデフォルトを変えていくことは今後ますます重要となります。下の表も参考に、子どもへの対応や接し方を見直していただきたいと思います。

	デフォルト例	書き換え例
生徒の成績が低調	補習をする	宿題を減らす、コーチングする、ピアサポート、グループエンカウンター、授業休止してリセット
生徒面談	教師がしゃべる、成績のフィードバック 学習アドバイス	生徒がしゃべり、教師が聴く、 外で並んで歩きながら認める、筆談する、絵を描く
教室の机の並び	「スクール形式」	おうぎ形、島、ペア、日替わり、自由席
宿題	復習中心	予習 反転授業
生徒の発言	挙手or 順番で一人ずつ当てる 教師に向けて発言	全員一斉に、ペアで、グループで 生徒(ピア)に向けて発言
進路選択、退塾	「なぜ?」と聞く	「何のため?」と聞く

## 4. デフォルトの書き換えをする

受験を控えた子どもの背中を押す際にも、次のようにデフォルトを変えていきたいですね。

### ■ これまでのデフォルト



### ■ これからの対応



親御さんも、時には迷うこともあるかと思います。そんなときには、子どもを質問責めにするのではなく、塾に相談いただくことをおすすめします。受験にチャレンジする子どもは、まるで迷路にいるような気分です。保護者にとって大切なことは、保護者席で俯瞰(ふかん)し続けること。保護者席から駆け降りて、子どもと一緒に迷路に入り込むことのないよう、迷ったら塾に相談する協力体制を築いていくようにしましょう。塾、保護者とタッグを組んで、子どもの成長と受験成功をバックアップしていけるといいですね。

お子様の状況も千差万別で絶対解とはなりません、お役に立てますと幸いです。

Q.1

**子どもがゲームに夢中で勉強しません。  
どうしたらいいでしょうか？**

A

無理矢理に勉強させても、勉強でなく作業となってしまうため、効果はありません。それどころか、親子で言い合いになるなどこじれてしまう危険もあるでしょう。そうならないためには、ゲームをしている横にいき「終わったら声かけてね」と伝えてみてください。お子さまから声をかけられたら「報告ありがとう」の一言を伝えたいうえで、メッセージで気持ちを伝えてみてください。

Q.3

**塾の予習量が多すぎてストレスに  
なっているようです。  
やめさせたほうがいいのか迷っています。**

A

子どもの中にある答えを引き出すことを心がけてください。お子さまが自分の状態をチェックできるような質問をしてみるといいでしょう。「どんな調子？」と尋ねたり、「心の余裕を100が最大として0~100で表したら、今どのくらい？」とスケーリングクエスチョンをするのもおすすめです。それにより、踏ん張るか、予習の量を交渉するかといった答えがみえてくるはずです。

Q.2

**中学受験をするのですが「お前の成績で大丈夫？」  
とからかわれているようです。**

A

「気にしちゃダメ」といった声かけも、お子さまの感情を否定することになるため注意が必要です。「そんなこと言われたんだ。辛かったね」と共感し、お子さんにいっぱい感情を吐き出させて、泣かせてあげて、傾聴してあげてください。そのうえで、みんながあなたを否定しても私たちはあなたを信じてるよというメッセージを伝えてあげれば、お子さまの力になるはずです。

Q.4

**中学受験をする予定であったものの、  
知識が十分でないことが不安なようで  
「受験をやめようかな」といっています。  
「受験するだけしてみたら？」と声を  
かけていますが、どうすればいいでしょうか。**

A

「受験してみたら」という保護者の声かけは素敵ですが、「とりあえず」というニュアンスが出るとプラスに作用しづらくなります。そのため、もう少し肯定的な表現ができるといいかもしれません。「どんな選択をしようとも、あなたの将来や力を信じているよ。ゆっくりじっくり考えて答えを出してね」といった声かけで、お子さまに力を与えてあげましょう。

Q.5

将来ジョッキーになりたいという夢があるため、義務教育で終わりたいと言っています。

中学受験もする予定ですが、ジョッキーが目標であるためそこまで勉強しなくていいとの発言も。

好奇心旺盛な子どもなので夢が変わることもあるとは思っていますが、どう見守ってあげればいいでしょうか。

A

お子さまが抱く夢を認めている素敵な親御さんですね。はたしてジョッキーになれるのか、なれなかったときに学歴がなくて大丈夫か…など不安も多いでしょうが、不安ばかり口にするのは避けたいですね。

大切なのは、不安を解決するためにお子さまと色々な情報を集めていくというスタンスです。お子さまの情報収集やそれを踏まえての思考を促すためには「どうやったらなれるの?」「どんなジョッキーになりたいの?」などたくさん質問してあげてください。保護者の無邪気な質問への回答を考える中で、お子さまは進路選択の視野を広げたり、思考を深めたりしていくはずですよ。

また「ジョッキーになって何がしたい?」といった質問や対話を続けることで、勉強の大切さにも気づいてくれます。ジョッキーを目指しつつ勉強も頑張ろうではなく、究極のジョッキーになるには語学や広い視野も必要だから勉強も必要という思いに至るはずですよ。その際、これからの社会は、専門性だけを追求したI型人才でなく、専門性を軸として幅広い知見を持つT型人才が重要になるという点も伝えられるとよいでしょう。

その他利用可能な機能多数!

詳細はコチラを読み込みの上、お問い合わせください。



「コムル」のお問い合わせ

お問い合わせWEB:「コムル」で検索!

コムル

検索

日本全国、Web会議にてご提案いたします。  
無料で使えるトライアルもございます。

株式会社 POPER

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 1-13-21 日本橋茅場町阪神ビル4F

e-mail: inside@popper.co